

0. はじめに

- ・講義（文学史、文学概論）広く浅く⇔特殊（別）講義（専門的研究）
- ・講読（作品講読、論文講読、専門書講読）具体的、個別的
- ・ゼミ（テーマ別調査、報告、討論）深める

1. 歴史と現状

- ・講義 文学史 歴史学的枠組みで文学を説明する＝歴史分期の枠組みを踏襲

教材…相浦杲『中国の現代文学』（NHK ブックス）、竹内実『現代中国の文学』（研究社）、小野忍『現代の中国文学』（）

高島俊男『声無き処に驚雷を聴く』『文学の自立を求めて』（日中出版）

中国大陸における枠組み『中国近代文学史』『中国現代文学史』『中国当代文学史』

＝政治史の主流にかかわる部分のみが記述される、外観する上ではわかりやすい

1980年代における新たな視点

＝「流派研究」概念の提出 嚴家炎ほか（文学史のとりこぼしを拾う）

＝「20世紀中国文学」概念の提出 陳平原・錢理群・黃子平（現代・当代を貫く視点＝文体や語りへの関心）

☆中国における文学史の見直し、書き直し＝日本（外国）から見たとき、必ずしもわかりやすくない。香港・台湾や海外華僑文学の視点の欠如（除『二十世紀中国兩岸文学史』1988など）。

→研究会編『中国近現代文学研究ガイド』（1985 中国文芸研究会）

→高島俊男・玉木瑞枝・辻田正雄編『中国新時期文学の108人』（1986 中国文芸研究会）

→私の試み『中国現代文学資料集』（試行本 1989 中国文芸研究会）

→我々の試み『図説中国 20世紀文学 資料と解説』（中国文芸研究会編、1995 白帝社）

☆1970年代から今日までを包括的に叙述する文学史は未だなし。20世紀全体に関しては藤井省三『20世紀の中国文学』（日本放送出版協会 2005.3）概括的説明としては、いま最も妥当と思われるが、話題性が先にたっているような点で、やや疑問がある。

→私の試み『オンライン中国 20世紀文学辞典』

（<http://aonoken.osaka-gaidai.ac.jp/zjcidian/suoyin.htm>）データベース化（顔や声も）

・講読…作品講読が主流 教員が研究している作家の作品やエッセイを中国語で読み、日本語に翻訳する。（作品をじっくり読むことができる。しかし大量の作品を読みこなすことができない。読んだだけで終わる＝体系的な知識となつて行かない）市販されている教材は、語学教材として編集される（東方）→独自の教材開発『中国現代文学資料集』

・ゼミ 原文主義で行くか、翻訳を容認するか いずれにせよ、テキストをきちんと読むことを教える必要性。

a.教員の研究する作家の作品を読ませ、報告させる。（学生は教員を越えられない、学生が関心を示さ

ない場合もある)

例：魯迅の小説作品を翻訳で順に発表させる。

b. 学生が関心をもっている作家や作品を報告させる。(教員の準備が大変、学生の知識が皆無であるところの方法は不可能)

c. 教員が関心をもっている複数の作家や作品を提示し、学生はそこから選んで調査し、報告する。(妥当ではあるが、内容は浅くなりがち)

d. ランダムに刊行物を選び、掲載されている作品と作家について、順番に調べさせ、報告させる。(原文主義では、中国で刊行されている文学雑誌を使う。翻訳を容認する場合、日本で刊行されている『季刊現代中国小説』や個別の作品集、単行本を用いることもある。)

→私の試み「小説テキストのデータ化と読解教育マニュアル」

(『世界文学3』大阪外国語大学における世界文学の教育と研究 1997) = 上記 d の発展

小説を読む視点の項目化(整理番号、題名、作者名、初出=原載、頁、ジャンル、時間、地点=場所、手法、視角=語り、人物、題材、主題、言語、描写、構成、問題点、作者略歴、その他、報告者) …大学院生相当、学部生には難しい?

3. 問題点と展望

○1980年代以前の中国現代文学に関しては、知っているべき知識についての共通認識がだいたいできているのに対し、1980年代以降については、多様化し、共通認識に欠けているところがある。=文学の脱共産党化・商品化が進んだ結果、プロパガンダ的に活動してきた党員作家と作家協会組織に関する関心が薄れ、研究対象から外れてきている現状がある。→80年代以前のプロパガンダ的文学状況を見る視点が今は別な意味で有効なのでは?

○外国語学部における中国現代文学教育には、さまざまな試みと内容的、方法論的蓄積があるけれども、まだそれらを統合する形で教科書化する作業が不十分である。

○構築したデータベースを活用する方法を確立する必要がある。

○講義教科書の編集を通じて、中国現代文学を専攻する学生が外国語学部をつうじてどの程度の知識を有するべきかの目安を提示することが求められている。=教育内容の標準化

中國現代文學史參考資料集

目 次

方 哲	《又書黃祖佐后》—— 1	***	《中國文藝家協會宣言》— 36
魏自珍	《平均黨》—— 1	***	《中國文藝工作者宣言》— 37
梁啓超	《論小說與時治之關係》—— 1	丁 玲	《我在霞村的時候》—— 38
王國維	《人間詞話》—— 2		《三八節有感》—— 39
秋 瑾	《秋風曲》《絕命詞》—— 3	毛沢東	《在延安文藝
胡 適	《文學改良芻議》—— 3		座談會上的講話》— 40
陳独秀	《文學革命論》—— 4	袁水拍	《冬天》—— 43
林 紓	《兩生》—— 4	趙樹理	《小二黑結婚》—— 44
魯 迅	《狂人日記》—— 5	袁水拍	《馬凡陀山歌》—— 45
胡 適	《蝴蝶》《一笑》—— 6	***	《白毛女》—— 46
周作人	《人的文學》—— 7	***	《大會的決議》《大會宣言》49
	《文學研究會宣言》—— 8	魏 巍	《誰是最可愛的人》—— 51
沈雁冰	《評四五六月的創作》—— 8	李 淮	《不能走那條路》—— 51
許地山	《命命鳥》—— 9	毛沢東	《關於正確處理
王統照	《遺音》—— 10		人民內部矛盾的問題》— 52
謝冰心	《超人》—— 11	劉賓雁	《在橋梁工地上》—— 52
孫俛工	《隔絕的世界》—— 12	王 蒙	《組織部新來的青年人》— 53
魯 迅	《阿Q正傳》—— 13	茹志鵲	《阿舒》—— 54
朱自清	《蹤跡》—— 15	吳 晗	《海瑞罷官》—— 55
聞一多	《紅燭》—— 17	***	《智取威虎山》—— 58
郭沫若	《編輯余談》《女神》—— 19	劉心武	《班主任》—— 60
郭達夫	《沈倫》—— 22	盧新華	《傷痕》—— 61
張寶平	《梅嶺之春》—— 25	白 樺 彭 軍	《苦戀》—— 62
傅代英	《文學與革命（通訊）》— 27	符子龍	《番廠長上任記》—— 64
郭沫若	《革命與文學》—— 27	劉賓雁	《人妖之間》—— 66
傅光慈	《關於革命文學》—— 27	張 潔	《愛，是不能忘記的》—— 68
茅 盾	《從枯嶺到東京》—— 27	***	《中國文學藝術工作者
魯 迅	《革命時代的文學》—— 28		第四次代表大會決議》 70
***	《中國左翼作家聯盟的成立》28	諸 容	《人到中年》—— 70
丁 玲	《莎菲女士的日記》—— 29	沙鐵新	李守成 姚明德
茅 盾	《子夜》—— 31		《假如我是真的》—— 71
巴 金	《家》—— 32	高曉聲	《陳奐生上城》—— 73
謝冰瑛	《石秀》—— 33	王 蒙	《蝴蝶》—— 74
蕭 軍	《八月的鄉村》—— 34	阿 城	《棋王》—— 75
老 舍	《駱駝祥子》—— 35	張賢亮	《男人的一半是女人》—— 76

【註：著者有***となっているのは、著者不明、集団制作を含む。】

資料

オンライン中国 20 世紀文学辞典索引

現在利用できる項目には◎がついています。

☆印の項目は 2003-4 年度科学研究費補助金による成果を含みます。

分類 \ なし	◎全作家(ピンイン索引)	◎☆中国語文学用語辞典	◎☆中国 20 世紀文学年表
時代・地域別	◎中国大陸現代作家	◎中国大陸当代作家	◎☆台湾・香港・華僑作家
ジャンル別	詩歌	映画	演劇
	◎報告文学・紀実文学	◎口述実録文学	伝記文学
	◎科学幻想小説	推理小説	武侠小説
	◎歴史小説	◎児童文学	動物文学
	文芸評論・文芸理論	文学論争	文学政策・組織
社団・流派・風格別	◎清末小説	◎鴛鴦蝴蝶派	◎南社
	◎新青年	◎文学研究会	◎創造社
	◎左翼作家聯盟	◎東北作家群	◎新月派
	◎京派・京味小説	◎海派	◎新感覚派・現代派
	◎七月派	◎九葉派	◎山葯蛋派
	◎荷花淀派	◎傷痕文学	◎反思文学・改革文学
	◎尋根(ルーツ)文学	◎知識青年文学	◎都市文学
	◎郷土文学	◎先鋒文学	◎新筆記小説・微型小説
	◎新状態文学	◎70 年代 生れ作家	◎80後写手・校園文学
その他	出身地	生年月日順	◎女流作家
	◎出版社・書店	◎報刊(新聞・雑誌)	◎教科書になった文学作品
邦訳アンソロジー	◎大陸現代文学	◎大陸当代文学	◎台湾文学
データ	◎「新時期」小説	☆当代文学雑誌目録	

Copyright 1997- 大阪外国語大学 中国文学研究室

戻る

「小説選刊」作品データ例 ファイル名：xx800202.txt

[01 整理番号]XX800202

[02 作品名]楊花似雪

[03 作者名]祝興義

[04 原載]『安徽文学』1980年第9期

[05 頁]18-27 (10)

[06 ジャンル]短編小説

[07 時間]解放前から文革後まで

[08 場所]ある地方の町と周辺の農村

[09 手法]リアリズム

[10 視角]一人称

[11 人物]我（医学学院教授兼付属病院医師）小曹（私の妻）、楊思萍（私の前妻）、叔父、叔父の妻、叔父の息子、郁書記（土地改革前の郁禿子、流亡無産者のちに成金、書記）四歪子（思萍の再婚相手、病気がちで思萍の負担になる）二嫂

[12 題材]土地改革、青年突撃隊、幹部の暴力、階級、農村、飢餓、包辦結婚、離婚

[13 主題]土地改革で幹部に転身したゴロツキ書記の為に一生をダメにされた女性の不幸と運命に流された若い夫。

[14 言語]標準語

[15 描写]一人称ながら客観的な描写法。扱う年代の範囲が広いので、現在の一場面から回想の形でカットバックする。

[16 構成]全10章。(1)来週の講義の準備をする私。面会人。楊思萍。(2)30年前の回想。旧暦9月18日三十に満たずして七年やもめだった母の再婚。楊思萍との婚約。医師の叔父。三歳上の従兄。(3)解放の年、欠食児童の私、楊思萍に食べ物を貢がせる(4)私十五、思萍十六で結婚。土地改革で叔父は地主とされ、医院の配属、従兄は中学生。私は叔父の上地で農作業。勉強したいが許されず。(5)中学の受験。合格するも経済問題で叔父難色。思萍の父親たちが叔父の家の農作業をすることで解決。私は思萍に愛情。(6)初級中学で「三好学生」となった私は町の本校の高等部に。思萍と離れる。そのうち思萍の父が死に、思萍は叔父の家から「独立」の名目で逐われる。私は保護者の書類に彼女を義姉と書く。(7)協同化から大躍進。私は大学受験の準備とアルバイト。彼女は青年突撃隊から食堂の賄いに。書記の慰み者になった思萍の事情を知る。(8)思萍と協議離婚。(9)郁書記の計略。私生児を身ごもった思萍、病気がちな四歪子と結婚。十数年後1976年冬、町で思萍と再会。(10)最初の場面に戻る。楊思萍は、郁書記の暴力事件に巻き込まれ負傷したのだった。手術で傷を縫合し出血を止める。

[17 問題点]郁書記だけを悪者にして済ませている。こういう書記をのさばらせた党の責任は追糾しないのか？

[18 作者略歴]祝興義、男、四十一才、安徽省懷遠県の人。五八年懷遠県文工団で働く。五九年合肥師範学院に入学。六三年卒業、中学教師となる。七五年以後懷遠県文化局に勤める。最近数年間に短編小説、戯曲などを発表。短編小説『抱玉岩』が七八年全国優秀短編小説賞を受賞。

[19 その他]なし

[20 報告者]青野繁治